

英国プロサッカークラブにおけるファイナンスの現状と課題

西崎信男（東海大学）

1. プロサッカービジネスの特徴：試合成績(performance on the pitch)とクラブ収益(financial success)が両立難しい。クラブ経営者もファンも収益を期待しないユニークなビジネスである。降格によって入場料収入、放映権、グッズ収入他収入が大幅に減少する。降格回避のため過大投資を行い破綻に陥ることが多い。売上高人件費率は60%を超える。

○収入：入場料、放映権収入,商業収入：①スポンサー収入、②グッズ販売、③付随ビジネス○支出：選手の給料、選手契約の売買 ○ファイナンス：地元篤志家による赤字負担、投資,借り入れ。1992年プレミアリーグ(PL)創設以来：エクイティファイナンス：175百万ポンド、メディアからの戦略投資300百万ポンド、選手契約売買150百万ポンド、証券化350百万ポンド、アブラモビッチ(チェルシー)700百万ポンド、オーナー投資250百万ポンド、借入れ他(参考文献①)。サポータートラスト(supporters' trusts)にも言及したい。

2. 欧州プロサッカーの現状：ヨーロッパの5大プロサッカーリーグとは英国PL、仏1部リーグ、独ブンデスリーガ、西1部、伊セリアAである。景気停滞の下、5大リーグは2007/2008シーズンも売上が増加し、欧州リーグ全体売上高は、146億ユーロ(1兆7500億円)に達した。その中で英国PLは2位を大きく引き離す24億ユーロ(2900億円)と好調である。(参考文献① p6: Y120@euro/Y140@pound)

3. 英国プロサッカーの現状：トップのPLを含むイングランドリーグで1986~2007の20年間で倒産(insolvency)が68件も発生。特に2003年以降、法改正により倒産が急増。ファイナンスの現状と課題を考察する。

4. 関連年表(参考文献③、p6)

1986：倒産法(Insolvency Act)施行

1992：“プレミアリーグ”誕生BSkyBテレビに放映権提供

1997：PLが降格クラブへパラシュート資金(parachute payments)供与決定

2002：“フットボールリーグ(FL)”の放映権を所有する民放ITV Digital倒産,

2003：英国税務当局が優先弁済地位(“preferential creditor”status)喪失

2004：2002年企業法(Enterprise Act 2002)の倒産条項施行

2007：PLがFLに、公平な配分目的の連帯(solidarity)パッケージ提供

○(倒産：insolvency)①Liquidation(清算)：清算後、新たな所有者と新たな投資によって立ち直り。②Administrative Receivership(財産保全管理人制度)(参考文献②)。Luton Townは2007年再度更正手続き入り。③Administration(更正)→企業の和議(CVA)◎(参考文献)1. Deloitte; Review of Football Finance 2009
2. 田作朋雄(1998)：イギリスのワークアウト 近代文芸社 3 John.Beech et al(2008)“The circumstances in which English football clubs become insolvent” CIBS Working Paper Series-no.4, Coventry University